阿南市民平和宣言

1945 年８月６日午前８時 15 分、人類史上初めての原子爆弾が広島に投下され、その３日後の８月９日午前 11 時２分には２発目の原子爆弾が長崎に投下されました。たった一発の原爆によって、それまで平和だった都市は、この世の地獄に変わってしまいました。一瞬の閃光で死んでいった人たちは、その閃光が原子爆弾であることさえ知らず、かろうじて生き延びた人たちも、原爆後遺症に苦しみ、孤独と不安の日々を送りました。私たちはこの恐ろしい原子爆弾が、二度と使われないことを願って核兵器の廃絶と恒久平和の実現をめざす強い意志を幾度となく内外に訴え続けてきました。

しかしながら、現在においても、核兵器のみならず、核物質や核技術の流出、拡散は続いています。そして、核兵器保有国間の緊張の高まりから、核の脅威は終戦後において最も高まっているといえる状態にあります。核戦争などによる人類の絶滅（終末）を午前０時になぞらえ、その終末までの残り時間を「０時まであと何分(何秒)」という形で象徴的に示す「世界終末時計」は、2018 年の「２分前」からさらに進み、今年、過去最短の「100 秒前」を示しました。

今世界では自国第一主義が台頭し、国家間の排他的、対立的な動きが緊張関係を高め、核兵器廃絶への動きも停滞しています。また、世界で猛威を振るう新型コロナウイルスが、大国のエゴを浮き彫りにし、差別と分断、さらなる格差を生み出しています。このような世界情勢を、皆さんはどう受け止めますか。二度の世界大戦を経験した私たちの先輩が、決して戦争を起こさない理想の世界をめざし、国際的な協調体制の構築を誓ったことを、私たちは今一度思い出し、人類の存続に向け、理想の世界をめざす必要があるのではないでしょうか。私たちは終末時計の針を戻すのではなく、終末時計自体が不要な世界を創らなければなりません。

「政府の行為によって再び戦争の惨禍が起ることのないやうにする」という日本国憲法前文には、平和を希求するという日本国民の固い決意がこめられています。かつて戦争が多くの人の命を奪い、心と体を深く傷つけた事実を、戦争がもたらした数々のむごい光景を、決して忘れない、決して繰り返さない、という平和希求の原点を忘れないためには、戦争体験、被爆体験を語り継ぐことが不可欠です。特に、次代を担う戦争を知らない若い人に 1945 年８月６日と８月９日を体験した被爆者の声を聴いてほしいのです。

核兵器は、都市を壊滅させることを目的とした非人道的かつ非合法な兵器です。私たちは今、声を大にして叫ばなければなりません。「核兵器は絶対悪であり、人類と共存できない」ということを。

私たちにとって、最も基本的な権利は平和への権利です。しかし、権利は不断の努力によって獲得するものです。市民一人ひとりが平和学習を深め「平和擁護非核都市の宣言」(1982 年９月 27 日)の具体化を図っていくことが、平和なまちづくりの第一歩です。「子どもたちに核のない世界」を実現することは至難の業であっても、決して幻想ではありません。

本日の平和祈念集会にあたり、原爆で亡くなられた方々のご冥福を心からお祈りするとともに、核兵器廃絶と世界平和の実現に向けて、市民一人ひとりが力を合わせ行動することを宣言します。

ノーモア・ヒロシマ、ノーモア・ナガサキ！

2020 年８月６日

第 36 回阿南市民平和祈念集会